

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について(牛久市)

<結果の概要>

◇小学校国語・中学校国語

小学校は5つ、中学校は6つの内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項(中学校のみ)」、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの内容から出題があり、小・中学校いずれも全国や県と比べて全体の平均正答率は高くなっています。

◇小学校算数・中学校数学

4つの領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」(中学校では「数と式」「図形」「関数」「データの活用」)から出題があり、小・中学校いずれも平均正答率は全国や県と比べ高くなっています。

◇中学校英語

4つの領域「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」から出題があり、小・中学校いずれも平均正答率は全国や県と比べ高くなっています。

<小学校 国語>

内容	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
言葉の特徴や使い方	◇文章の種類とその特徴について理解していることについては、平均正答率が8割を超えており、おおむね満足できる状況です。 ◆日常よく使われる敬語を理解していることについては、国や県の平均正答率を下回って5割強の正答率にとどまっています。日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが必要です。
情報の扱い方に関する事項	◆情報と情報との関係づけの仕方については、6割5分の正答率であり、国や県の平均正答率は上回っているものの高いとは言えません。目的に応じて必要だと判断した複数の語句を図示によって関係づけて考えをより明確にする力を高めることに努力を要します。
話すこと・聞くこと	◇必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることについては、正答率が7割5分を超え、国や県の平均正答率を上回っています。 ◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることについては、正答率が7割に届かず、国や県の平均正答率を下回っています。相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確に持ちながら聞く力を育成することが必要です。
書くこと	◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、国や県の平均正答率は上回っているものの正答率が4割弱と低く、無解答率もやや高い傾向にあります。国語だけでなく他教科でも図表やグラフを用いて文章を書く経験を増やすことが必要です。
読むこと	◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することについては、平均正答率が9割を超えており、十分満足できる状況です。 ◆文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることについては、国の平均正答率は上回っているものの、正答率が6割を下回っており、十分とは言えません。複数の本

	や資料を読んで分かったことや既存の知識や体験と結び付けて整理する学習活動の充実が必要です。
--	---

<中学校 国語>

内容	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
言葉の特徴 や使い方	◇事象や行為、心情を表す語句の理解については、平均正答率が9割を超えており、十分満足できる状況です。 ◆文脈に即して感じを正しく書くことについては、国や県の平均正答率を大きく上回っているものの、正答率は5割弱と高くない状況です。漢字の学習の際だけでなく、他教科等の学習や日常的に書く活動を通して、漢字を正しく書けるようにすることが必要です。
情報の扱い 方	◇具体と抽象など情報と情報との関係の理解については、正答率が7割を超え、国や県の平均正答率を大きく上回っています。文章の中の共通する要素を見つける力がついてきます。
我が国の言 語文化に関 する事項	◇歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことについては、正答率が8割を超えており、おおむね満足できる状況です。 ◇文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることについては、正答率が7割を超え、国や県の平均正答率を大きく上回っています。
話すこと・ 聞くこと	◇話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することについては、平均正答率が8割を超え、国や県の平均正答率を大きく上回っています。
書くこと	◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、正答率が7割5分を超えており、国や県の平均正答率を大きく上回っています。 ◆読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、正答率は6割をやや下回り、高いとは言えません。観点を明確にしたうえで書いた文章を推敲し、伝えようとするのが十分に書き表されていることを確かめる学習活動を積み重ねることが必要です。
読むこと	◇観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることは、7割5分を超え、国や県の平均正答率よりも1割以上高くなっています。 ◆文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることは、国や県の平均正答率を大きく上回っているものの、正答率は6割をやや下回り、高いとは言えません。古典の世界に親しむために、学校図書館を活用して生徒が多用な情報に触れられるように学習環境を整えるとともに、古典の原文と複数の現代語訳を比較・関連付ける活動を通して、興味・関心を高める工夫が必要です。

<小学校 算数>

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
数と計算	<p>◇一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることについては、平均正答率が8割を超えおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆(2位数)÷(1位数)の筆算について各段階の商の意味を、図を基に考えることについては、正答率が5割を超え国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。図と関連図けて筆算の各段階の商の意味を説明する活動が必要です。</p>
図形	<p>◇正方形の意味や性質を理解することについては、平均正答率が8割を超えおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆正三角形の意味や性質を理解することについては平均正答率が約3割、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を比較することについては平均正答率3割を超え、国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。知識・技能を活用する学習活動を積み重ねることが必要です。</p>
変化と関係	<p>◇伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることについては、平均正答率が9割を超え十分満足できる状況です。</p> <p>◆百分率で表された割合を理解しているかについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が5割程度とさらに努力を要する状況です。図を基に基準量と比較量を十分にとらえて思考する学習活動を積み重ねることが必要です。</p>
データの活用	<p>◆二つの棒グラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することについては国や県の平均正答率を上回っているものの、無答率が約2割と高くさらに努力を要する状況です。グラフから読み取れることを根拠を基に説明しあう学習活動を重ねることが必要です。</p>

<中学校 数学>

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
数と計算	<p>◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることについては、平均正答率が9割を超え十分満足できる状況です。</p> <p>◆結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、無答率が約2割と高く、さらに努力を要する状況です。問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明する学習活動を十分に行い、まずはペアに口頭で説明できるようにしていくことが必要です。</p>
図形	<p>◆2つの直線が平行であることを証明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が3割超、無答率が約2割とさらに努力を要する状況です。まずは図と関連付けて伝え合う学習活動を基盤に、次第に簡潔・明瞭なものとなるように段階的に指導していくことが必要です。</p>

変化と関係	<p>◇事象を表した直線のグラフを、事象に即して解釈することについては、国や県の平均正答率を上回っており、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が約 5 割、無答率が 2 割弱と高く、さらに努力を要する状況です。問題解決の方法を説明する学習活動を意図的に行っていくことが必要です。</p>
データの活用	<p>◇四分位範囲の意味を理解していることについては、平均正答率が約 8 割と、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆2つの箱ひげ図を比較し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が 4 割弱、無答率が 2 割弱と高く、さらに努力を要する状況です。データの活用の際に、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する学習活動を十分に行っていくことが必要です。</p>

<中学校 英語>

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
聞くこと	<p>◇情報を正確に聞き取ることについては、平均正答率が8割以上に達しており、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。</p>
読むこと	<p>◇事実と考えを区別して読むことについては、平均正答率は高くないものの、国や県の平均正答率を上回っており、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆短い文章の概要を捉えることについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。</p>
話すこと	<p>◇日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことについては、平均正答率は高くないものの、国や県の平均正答率を上回っており、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆日付に関する基本的な表現を理解し、その知識をやり取りの場面において活用することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、無答率が高く、さらに努力を要する状況です。</p>
書くこと	<p>◇未来表現の肯定文を正確に書くことについては、平均正答率は高くないものの、国や県の平均正答率を上回っており、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりある文章を書くことについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、無答率が高く、さらに努力を要する状況です。</p>

<質問紙調査の結果から>

- ◇「これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が多くいます。

◇「これまでに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と感じている小学生（児童）・中学生（生徒）が多くいます。

◆「これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と感じている小学生（児童）・中学生（生徒）は、全国に比べて少ない状況です。